

「一帯一学」へ

共に歩まん

令和元年7月24日発行

第3号

長野県中^信教育事務所

1学期の授業
どうだった？



1学期の私の授業

導入の
1時間目

展開の
2時間目

展開の
3時間目

終末の
4時間目

1時間ごとの私の
やりたいことは
できたけど…



何かひっかかっているようだね。
なぜか、一緒に考えてみようか！

1時間の授業は何のためにあるのか？

子どもは1時間、1時間の授業で何を
目指していたか知っていた？
そして、単元を終えて先生はどんな
子どもの姿と出会えたかったの？



1時間ごと自分のねらいは定
めていたけれど、子どもの意識
や単元を終えた姿は、思い描い
ていなかったかなあ

頂上だ！すごい
次はあそこ行こう

単元の
ねらい
終末の
授業

頂上とは、単元のねらい。先生が、
どんな子どもの姿を目指している
かを見いだしていないと、1時間ご
との授業の目標は定まらないよね。

お互い頑張って登ってきたね！
それぞれの道はどうだった？これ
からどうやって頂上を目指す？

展開の
各授業

私も…

私は…

展開では、目指す子どもの姿に
向かって、子どもが選んだ「頂上
へ行く道筋」に寄り添いつつ「共
に学べる場はどこか」を考え設定
していくことが大切。子どもの思
考は多様だから、先生が1本の道
しか選択できないようにしてい
たら、学びが窮屈になっちゃうよ。

どの道筋で登ろうかな？

導入の
授業

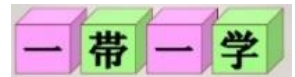
導入では、子どもが頂上にたど
りつくまでの見通しをもてるよう
にすることが大切だね。

単元の学びを登山にたとえてみると、1時間、1時間
の授業とは「単元のねらい」にたどりつくまでの道筋な
んだよね。「単元のねらい」とは言い換えると「目指す子
ども像」各教科、領域で目指す子ども像と先生が在籍
する学校の目指す子ども像とを重ね、どんな子ども像を
思い描き、授業を行ったか、2学期教えてね！



「頂上」には何がある
のかを考え、そこにた
どりつくために1時
間、1時間の授業が
つながるよう授業づ
くりをしてみます！

「一帯一学」への扉 「学びの笑顔」を求めて【国語科 編】



[松本市立島内小学校] 吉沢 信也 先生

4 学年

「ツリーハウス新聞を作ろう」

～島内小学校の「国語科（書くこと）」における
目指す子どもの姿～
意欲的に文章を書き、友と関わり合いながら文章表現
をよりよくしていく子ども。

学習の
見通し
をもつ

自分たちの願いをもとに学習のゴールイメージを明確にして、学習の見通しをもつ

総合的な学習の時間に作っているツリーハウスで、もっと多くの友だちと遊びたいと願った4年4組の子どもたちは、兄弟学級の3年4組に向けて、ツリーハウスのよさを伝える壁新聞を書くことにしました。新聞の書き方について知りたくなった子どもたちは、実際の新聞から構成を学んだり、子ども向けと大人向けの二つの新聞を比較したりして、相手に伝える表現や語句の使い方、読みやすい字数等を意識した新聞づくりを始めました。



子どもが意欲的に書くことを願った吉沢先生は、総合的な学習の時間で醸成されてきた子どもの願いから「書くこと」の題材を設定しました。「ツリーハウスのよさを伝える」という目的と、「3年4組」という伝える相手が明確になったことで、どのように書くかについての見通しをもつことができました。このようにゴールイメージを明確にして、学習の見通しをもつことが、子どもたちの主体的な学びにつながっていきます。

主体的
な学び

観点を定
めて交流
する

観点を定めて、他者との対話で自分の考えを広げたり、深めたりする



Aさんは班の「緑にかこまれたツリーハウス」というテーマのもと、ツリーハウスを作り始めた理由について書きました。そして「本当に伝えたいことが書けているか」「3年生にわかる表げんになっているか」という観点から互いの文章を見合う中で、同じ班のBさんに「(記事の) 終わりにもう一つ (文を) 入れたら？」というアドバイスをもらいます。「読みやすさ」という点からの字数制限がある中で、Aさんは記事の最後に「作っている時のことを想像して」と書き、少し迷って消して「自分 (3年生) のオススメを考えて」と書き、また消して「作っているときのことを想像して遊んでみてください」と直しました。授業後、先生に「まだ納得できないから、もっと考えたい」と伝え、推敲を続けました。

友だちとの対話で自分の記事を見直したことで、Aさんは結びの一文を加えると記事の内容がもっとよくなると感じました。そして、伝えたいことと、3年生なりに楽しんでほしいということとの間で試行錯誤しながら考えていきました。このように、対話する際の観点が定まっていると、自分の考えを広げたり深めたりする手がかりとなり、対話的な学びにつながっていきます。

対話的
な学び

学びを関
連付ける

「言葉による見方・考え方」を働かせ、日常生活に生かす

Cさんは、推敲後の自分の記事を読み直して、「もらったアドバイスを入れて、記事を読み直したらいいものになった」と、推敲することのよさを実感しました。今後、壁新聞を読んだ3年4組から感想をもらうことで、子どもたちはツリーハウス新聞作りの学習過程を見つめ直し、書き手と読み手の双方の視点から内容を捉え直していくことが期待されます。このような学習によってAさんは、今後文章を書く際に、結びをどのように書くとよいかという点から自身の文章を見つめるといった、資質・能力を生かすことができそうです。さらには、文章を読む際に、書き手はどんな工夫をしているかと考える姿にもつながっていくと考えられます。



子どもたちは新聞作りの過程で、伝えたいことと相手に分かりやすくすることを、文章の内容や表現と関連付けて考えました。また、その中で学んできた過程や内容を単元の終末で確認することは、今後の文章を「書く」際や「読む」際にもつながる学びになることが期待されます。「言葉による見方・考え方」を働かせ、学んだ過程や内容を確認することが、より深い学びにつながっていきます。

深い
学び



子どもの願いをもとに学習過程をつくっていくことで、目指す子どもの姿につながっていきますね。

今後、子どもたちの「もっと多くの人にツリーハウスのよさを伝えたい」という願いから、全校の仲間や保護者に、リーフレット等を用いて伝える活動に広がることを吉沢先生は考えています。

【松本市立安曇小学校】 横山 享司先生

6学年 「天皇中心の国づくり」
～聖武天皇の大仏づくり～

～安曇小学校の社会科が目指す子どもの姿～
社会的な見方・考え方を働かせながら、学び
を広げ深める子ども

自ら課題

教材研究と子ども理解から、子どもの中に問題意識が生まれる

を見つけ

小学6年生、奈良時代、聖武天皇の大仏づくりについての授業です。子どもたちは、いくつかの資料を用いて、聖武天皇の大仏づくりについて調べてきました。A君は、「聖武天皇は世の中がよくななくて仏の力で世の中を救おうとしたんだ」と考えました。一方で、B君は「でも、大仏づくりには3000億円以上もかかっている。本当に世の中を救うんだったら行基がしたみたいに人々が必要とする橋をかけることにお金を使うんじゃないかな」と考えました。聖武天皇の大仏づくりの裏にある「気持ち」に疑問を抱いた子どもたちは、「聖武天皇は本当に『仏の力』で不安定な世の中をよくしようとしていたのか」について考えていくことになりました。

主体的な学び

安曇小学校では、「教材研究」（子どもの問いがどこで生まれるかという視点から）と「子ども理解」（毎時間の子どもの発言分析）の2つを大切に研究を積み重ねています。横山先生は、素材研究を重ね、「天皇制が揺らぎ始める中で、大仏づくりにかけた聖武天皇の苦悩」を教材の価値として見出しました。子どもたちは資料を基に調べ学習を進める中で、聖武天皇の行動の裏にある「気持ち」に疑問を抱いていきました。教師の徹底した教材研究と子ども理解により、子どもたちの中から聖武天皇の真意に迫る学習問題が生まれました。

他者との協働

お互いに問い返しをしながら話し合い、自分の考えを広げたり深めたりする



子どもたちは、「大仏の力で雨を降らしたり病気を鎮めたりしてほしかったんだよ」、「人々が死んでしまったら税がとれなくなってしまうからかな。結局は自分のためなのかな」、「聖武天皇は天皇中心の世の中にしたかったから、やっぱり自分のためだったんじゃないかなあ」、「前勉強したけど、聖武天皇は『責任は我にあり』って言っていたじゃん。（世の中の混乱の）責任を感じて、みんなのために大仏をつくったんだよ」などと、これまでの学習内容を生かして考えを広げていきました。

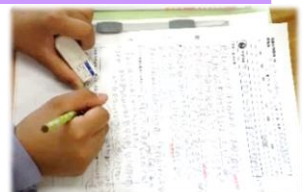
対話的な学び

普段から既習を生かす学習が、このクラスで大切にされていることを感じました。話し合いの中で、子どもたちがノートを見返したり、模造紙黒板を見たり指し示したりする姿がたくさん見られました。さらに、横山先生は子どもたちに何度も、「どうして?」「もう少し教えて」と問い返しをしていました。その問い返しにより、一人一人の発言の内容がその都度全体に共有されながら話し合いが進んでいきます。既習の内容を活用しながら、互いに問い返すことができる場面を位置付けることで、子どもたちの考えが広がっていきます。

自己を 自らの学びを振り返り、自分の考えの広がり・深まりを自覚する

見つめる

授業の始めに『天皇中心の国づくり』だから、聖武天皇は不安定な世の中をよくしようとはしていない」と考えていたCさんは、授業最後の、友との話し合いによって広げた自分の考えをまとめる場面で、「どっちだろう。災いや反乱のことで責任を感じていたのもあるし、天皇中心の国づくりをめざしていたから、よくしようとしていたのか、いなかったのかわからない」と振り返りを書きました。



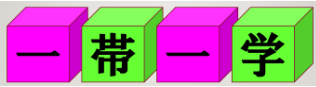
振り返りの時間、Cさんは再び一人になって自らの学びを振り返り、それを綴りました。「天皇中心」という自分の聖武天皇への見方に、「責任を感じ苦悩する」という友の聖武天皇への見方を加えてさらに考えているCさんの心の内が、振り返りの内容に表れています。こうして学習問題に立ち返って自分の学びを振り返ることで、自分の考えの広がりや深まりを自覚することができ、深い学びにつながっていきます。

深い学び



安曇小学校では、教師が子ども理解と教材研究を大切にしながら単元づくりをすることで、子どもたちは聖武天皇の大仏づくりの営みを「天皇中心」「人々のために」「税のために」など多面的に考えながら考えを広め、深めていたね。安曇小学校が社会科で目指す子ども像とつながっているね。

ゾーン探訪 ～約160km管内を学びでつなぐ～



UDリーダーとして、今、何をしていますか？

まずは自身の学級経営・授業でUDを意識した手立てを重ねています。また校内で多層指導モデルMIMによる読みの指導をしています。

例えば、どんなことを意識して授業をしているのですか？
また、MIMでは具体的にどんな取組をしているのですか？

指示でも発問でも説明でも端的な表現や視覚的な支援を中心に、一人の子どもへの手立てが全体につながることを意識しています。MIMについては、1・2年生の学級を中心にお邪魔してアセスメントとステージ別指導を行っています。

今後は、どんな取り組みをしようと考えていますか？

日々、先生方がされている授業や学級経営には、UDにつながる工夫がたくさんあると思います。その工夫をシェアし、先生方に学級の子もたちの実態に応じて生かしてもらいたいです。そして、子どもを中心に据えた学級経営や授業とは何かを探り続けていく「うねり」が広がっていくことを目指したいです。そこに、MIMによるアセスメントなども活用されることで、一人でも多くの子・先生方のサポートができればと思っています。

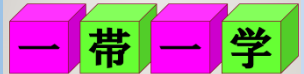
《UDリーダー 高見澤先生の今後の予定》

- ・校内にてUD推進の取り組み
- ・校内にてMIMによるアセスメントや指導を実践
- ・松本市学力調査検討委員会に参加（夏休み）
- ・市内小学校にて校内研修のお手伝い（夏休み）

子どもと教師、教師と教師、教師と学校、学校と学校、これらを学びでつなぐ高見澤先生の取組をまた教えてね。



研修の広場 ～各種研修レポート～



初任者 × 5年経験者

子ども達が笑顔でいるのか、疲れた顔をしているのか。それは全て自分の写し鏡になっていると言われた。明日、子ども達の表情、姿を自分の姿と置き換えて見てみたい。【初任者】

今日チームで考える大切さを改めて感じた。職員室で周りの先生にどんどん話をし、話を聞いていきたいと思う。私が会話の輪をつくれたらいい。【5年経験者】



夢をもって教師として歩み始めた初任者。
新たなキャリアステージに向かう5年経験者。
立場の異なる両者が、「7/2教師力向上研修Ⅱ」で持ち寄った実践をもとに、テーマを決めだし、語り合いました。

5年経験者の謙虚に学び続ける姿勢に今後の自分の姿を重ね、新たな目標を見つけた初任者。キャリアステージを意識し、若手職員のリーダーとしての自分を自覚し始めた5年経験者。それぞれの先生がまた新たな一歩を踏み出したよ。

全員が安心して過ごせるクラスにするためには、担任からだけでなく、子供同士で認める声が出るようにしていけばいいんですね。

